

校番 1	福山市立鞆の浦学園
最終更新日	2020 年（令和2年）10月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の理念のもと、各中学校区・学校は「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 自校

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校が進めている取組内容について、概ね肯定的な評価をいただいた。 • 開校2年目も引き続き、児童生徒のために積極的に取組を進めていくことを期待される。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p>	<p>① 課題発見・解決能力 ② 情報活用能力 ③ コミュニケーション能力 ④ 郷土愛</p>
<p>ミッション</p> <p>前期課程・後期課程の連携を強化するとともに、義務教育9年間の一貫した教育を推進し、将来の日本やふるさと福山を支え貢献する人材を育成する</p>	<p>①</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 物事を多面的に見たり、これまでの経験や知識を活用したりする中で、新たな課題を発見することができる。 • 多様な他者と協働したり、よりよい解決方法を選択したりすることで目的に応じた納得解を導き出したり実行したりすることができる。
<p>学校教育目標</p> <p>郷土福山を愛し、心身ともにたくましく意欲を持って主体的に学ぶ子どもの育成 ～ ふるさとの自然、人、歴史、伝統、文化に触れながら、学びをつなぎ深める～</p>	<p>めざす 子ども像</p> <p>②</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 適切かつ効果的な情報を収集できる。 • 収集した情報を分類・整理・比較・関連付けて、目的や意図に応じて適切かつ効果的にまとめることができる。 • 多様な他者を相手とし、情報と関連付けてより効果的な方法で発信できる。
<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4月6日(月)に始業式、翌日入学式を行い、1週間は児童生徒が登校するが、4月15日(水)から市内一斉臨時休業となる。 ○ 休業中は家庭学習を基本とするが、学年ごとに週2日の「自由登校」「学力補充」日を設定する。 ○ 5月11日(月)から週2日のうち1日は課題提出日として、課題の進捗状況の確認や学習面・生活面で抱える疑問や不安の改善を図る取組をする。 ○ 課題提出の1日は、ほぼ全員登校している。さらに、それ以外の日には、約6割の児童生徒が自分で計画を立て学習や運動を行っている。 ○ アンケートには、「計画を立て自分で考えて行動できる」「時間配分ができるようになった」、「勉強ができていいのか」「勉強が追い付いているのか」等の声がある。さらに「みんなに会いたい、授業をやりたい」との声も多い。 ○ 昨年度3月の臨時一斉休業も含めると、児童生徒は約3か月の間、学校で授業や部活動をしていない状況にある。 	<p>③</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 多様な他者と互いに考えを認め合いながら、協働することができる。 • 多様な他者と協働することで新たな考えを創造し、適切かつ効果的な解を導き出すことができる。
<p>④</p>	<p>④</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 鞆のよさや課題を理解した上で、解決策を考えることができる。 • 世界的な視野で、鞆のよりよい町づくりに貢献できる。
<p>研究</p> <p>教科等</p> <p>主題内容等</p>	<p>外国語学習、鞆学（総合的な学習の時間）を中心に全教科・領域</p> <p>「教科・学年の枠を超え前期・後期課程の一体的な教育内容と教育体制の確立」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自ら考え学び続ける授業の創造 ～21世紀型“スキル&倫理観”の育成～ • カリキュラムマップを活用し、単元構想力と授業実践力を追究 <p>○ 「新しい生活様式」を踏まえ、「いのち」を守る新たなルールづくりを行う。</p> <p>○ 学校と家庭の授業・生活を繋ぎ、児童生徒一人一人の主体性と責任感を育む。</p>	
<p>めざす授業の姿</p>	<p>めざす授業の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「なぜ?」「わからん、教えて!」「やった、わかった、できた!」「もっとやりたい!」などの声のする授業 • 考え、話し合い、そして学び合う、みんなとともに自信を育てる授業

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立鞆の浦学園

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	力以達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力以達成評価	総合評価	改善方策	
2	自ら考え学ぶ授業づくりを進めて、学ぶ意欲と基礎学力を向上させる。	★	見直し	児童生徒、教職員一人一人が学びの成長記録を手に入れることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自己選択・決定の場面を位置付け児童生徒が「学びは面白い」と実感できる学習方法や学習形態等を工夫する。 「わかった、できた」「もっとやりたい」等の声がする、意欲を持って学べる評価を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒アンケートによる「授業がよく分かる」「授業で考えることは面白い」等の肯定的評価85%以上 例えば、「成長ノート」で学びの発見や驚き等を記録し、授業の成果物をHP掲載や作品展等に積極的に応募 	<input type="checkbox"/> 「授業がよく分かる」 前期84.8% 後期86.5% 「授業で考えることは面白い」 前期73.8% 後期83.1% <input type="checkbox"/> 「成長ノート」の記録、成果物等に対する評価を実施した。「意欲をもって学んでいる」 前期 84.1%、 後期 94.1%	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 「よく分かる」「考えることは面白い」と児童生徒が感じた内容、活動について付箋に書いて掲示する。 児童生徒が意欲をもって学んだ取組を毎月1回交流し、まとめ、冊子にする。 				
2	ふるさと「鞆」、ふるさと「福山」への愛着と誇りを育てる。	★	見直し	SDGsと結び付け、ふるさとについて、自分で活動を選び行動することができる。(自己選択・決定)	<ul style="list-style-type: none"> 鞆学を中心に、全教科・領域でSDGsに関連したカリキュラムを開発し実践する。 児童生徒が自ら考え、挑戦し続けるよう、互いの頑張り認め合う具体策を各自が設定し取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒アンケートによる「住んでいる地域のこと好きである」の肯定的評価90%以上 児童生徒アンケートによる「自分の考えは認められている」の肯定的評価を85%以上 	<input type="checkbox"/> 「住んでいる地域のこと好きである」肯定的評価 前期92.0%、 後期90.9% <input type="checkbox"/> 「自分の考えは認められている」肯定的評価 前期74.6%、 後期80.6%	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が鞆学の取組を交流するために、毎月1回の中間発表や掲示をする。 各学級、各委員会の取組を掲示し、意見を出し合うことで、「幸せの道」を更新していく。 				

2	働き方改革の意義を理解し、自ら実践することができる。	★	見直し	業務内容を精選しながら質を高め、年間を通して計画的に業務を遂行する力を付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退校日を厳守するとともに、見直しを持った業務管理を進める。 ・ コロナ時代の学びに挑戦して、義務教育学校の良さを最大限に生み出す各自が考えた具体策を実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員が、1ヶ月の時間外勤務の時間は45時間以内 ・ 職員アンケートによる「仕事にやりがいを感じている」の肯定的評価90%以上 	<input type="checkbox"/> ほぼ全員が達成できた。99%達成。 <input type="checkbox"/> 教員アンケートによる肯定的評価100%	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分掌や担当に捉われないプラスワンの取組を各自が行う。 ・ 義務教育学校の良さを生かした教員の取組や子どもたちの輝く姿を全職員が毎月1回以上学校HPで発信する。 						

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。